仙台大剣道部 阿部監督（秋田市出身）

勝利も質も高み目指す

「見本になれるよう精進」

仙台大（宮城県柴田町）で体育学部准教授を務める秋田市出身の阿部弘生（ひろお）さん（43）が、剣道部監督として学生と共に稽古に打ち込んでいる。「大学では勝利だけでなく質も追求し、双方で高みを目指す志が必要だ」と唱え、剣道漬けの日々を過ごす。

部員は男女合わせ45人。どの学生も長く剣道に励んできており、高い水準の技術や概念を備えているという。阿部さんはそれを踏まえ、「大学に入るまでに一人一人が優れた指導者から多くの剣道観を学んできたはず。その経験や背景を尊重し、ブラッシュアップするのが自分に課せられた役目。将来の指導者を育てるため、見本になれるよう精進したい」と意気込む。

稽古で最も心がけていることが、部員と一緒に稽古で汗をかくこと。「誰よりも声を出し、先に技を出し、打たれたら頭を下げる。この三つを徹底し、自らの人間性を示している」と語り、謙虚な姿勢を貫く。



仙台大剣道部で監督を務める阿部さん

5歳から凌雲館渡辺道場（秋田市）で故・渡辺八郎館長から剣道を習い始め、秋田大付属中、秋田高、山形大でも続けた。「剣道に今も夢中でいられるのは渡辺館長のおかげ。仙台大で指導している内容は渡辺館長から教わったことが土台になっており、そこに少しアレンジを加えているだけ」と話す。

山形大まで剣道を続ける過程で、今も師事する秋水館鎌田道場（秋田市）の鎌田耕平館長から言葉をかけられ、「自身に勝負へのこだわりが希薄な部分があった」と気付かされた。「中途半端な過去から抜け出したい」と筑波大大学院へ進学。「勝つ剣道」に打ち込んだ末、勝利と質の双方を追い求める境地にたどり着き、修士課程を修了した。

秋田明徳館高や国学院大、東北文教大で教壇に立ち、２０２４年に仙台大准教授に。武道学が専門で、現代武道学科で武道史や武道思想史を教えているほか、子ども運動教育学科で幼児教育も研究。山形県スポーツ推進審議会の会長も務めている。

仙台大は昨年の東北地区新人戦で男子が団体優勝した。阿部さんは「まだいい成績を重ねる段階に達していない」としつつ、「戦績だけで輝くのではなく、剣道を通して誰かの役に立つ人間に成長していってほしい」と学生にまなざしを向ける。

幼少期の師匠である渡辺館長は、92歳で他界する2カ月前まで試合に向けた準備をし続けるほど剣道一筋の人生を送っていたという。その姿勢を引き継ぎ「自分も死ぬまで剣道をやる」と生涯現役を誓う。実際に全日本選手権の予選など各大会に出場しており、「どの試合も、だいたい私が最年長」と照れくさそうに笑う。

古里には強い思い入れがある。「いずれは秋田に戻って暮らしたいと、妻と常々話している。秋田のために何かで貢献したいという気持ちでいっぱいだ」と力を込める。

（小松嘉和）

〈随時掲載〉

秋田魁新報社 Copyright ©AKITA SAKIGAKE SHIMPO All Rights Reserved.掲載記事、写真の無断転載を禁じます。